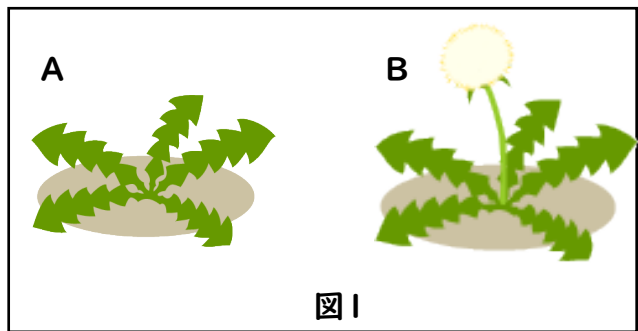


図1のA、Bは6月と12月に東京で見かけたタンポポをスケッチしたものです。Aには茎がなく、Bには綿毛がついていました。これについて、次の問いに答えなさい。

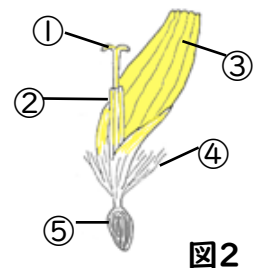


- (1) 12月にスケッチしたタンポポはA、Bのどちらですか。記号で答えなさい。
- (2) 図1のAのように、地面に葉がへばりつくように広がった状態を何というか答えなさい。
- (3) (2) のような状態で過ごすことはどのような点で都合がよいからか説明しなさい。
- (4) この時期に、同じように地面にへばりつくように葉を広げている植物として当てはまるものをすべて選び、記号で答えなさい。  
ア オオマツヨイグサ イ アブラナ ウ ナズナ エ オオバコ オ イネ
- (5) 表1はタンポポの茎の先端が、地面から何cmの高さにあるかを調べたものです。図1のBをスケッチした時期は表のア～エのどの時期だと考えられますか。

表1

観測日		ア			イ			ウ			エ		
地面からの高さ (cm)		4.2	5.7	8.9	15.7	14.8	3.1	1.4	2.1	9.4	16.8	16.9	4.5

- (6) 図2はタンポポの花をスケッチしたものです。①～⑤の各部分の名前を答えなさい。



(1)	(2)
(3)	
(4)	(5)
(6) ①	(6) ②
(6) ③	(6) ④
(6) ⑤	

- (1) 一般的にタンポポは春に開花し、綿毛（種子）をつけます。  
冬は葉だけの姿になり冬越しします。したがって、Aが12月と考えられます。
- (2) 地面に葉を広げて冬を越すすがたをロゼット（ロゼット葉）といいます。
- (3) ロゼットで冬越しをする利点には地面から熱が逃げるのを防ぐ、冷たい北風から身を守る、春になってから芽を出すより早く成長できる、などがあります。
- (4) ロゼットのすがたをとる植物にはタンポポの他にナズナ、オオマツヨイグサ、オオバコなどがあります。
- (5) タンポポの茎は、花が咲く直前に急に伸び、花が咲いたあとといったん倒れます。実が熟してから再び立ち上がり、種を飛ばした後に枯れます。  
したがって、綿毛をつけた状態なのは、いちど先端が地面に近づいたあと再び伸びたエの時期と考えられます。
- (6) タンポポは頭状花序といい、図2のような小さな花が集合して1つの花のように見えているので、図2には1つの花として必要なつくりがすべて備わっています。  
①がめしべ、②がおしべ、③が花弁（花びら）、④がかん毛（がく）、⑤が子房です。  
④のかん毛は種子が成熟した後の綿毛になります。

(1) A	(2) ロゼット
(3) 冷たい風から身を守ることができる	
(4) ア、ウ、エ	(5) エ
(6) ① めしべ	(6) ② おしべ
(6) ③ 花弁	(6) ④ かん毛
(6) ⑤ 子房	